

週刊センターニュース No.15



第15号(2004年6月21日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会の記録ビデオテープについて

以前からご案内しておりますように、共同学習会にご出席いただけなかった方々のために、報告者の了解を得て記録しておりますテープのダビングを行います。ご希望の方は例えば、第19回「企業にとっての共同研究 - 外部資金獲得の方法 - 」と明記して、テープとともに学内便でお送りください。

共同学習会のご案内

第24回共同学習会は本学イーラーニング研究会との第1回合同研究会として、以下の通り開催いたします。開催場所は、総合メディア基盤センターとなります。

日時: 6月24日(木) 5時限目(16:10~17:40)
場所: 総合メディア基盤センター2階 プレゼンテーション室
講師: 木村和子教授 薬学部(医療薬学講座国際保健薬学)
題目: 「社会人のe-ラーニングと大学」

第25回 日時: 7月1日(木) 5時限目(16:10~17:40)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 早田幸政(大学教育開発・支援センター)
題目: 「大学基準協会の認証評価制度への取り組み」

第26回 日時: 7月8日(木) 5時限目(16:10~17:40)
場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講師: 鹿野勝彦(教育担当理事)
題目: 「金沢大学の教育体制における問題点と今後の取組」

講義を担当して思ったこと

私事で恐縮であるが、5年ぶりに講義を担当させていただいた。昨年12月に研究専念型の研究機関から金沢大学に赴任した。5年ぶりというのも、研究機関の前は大学で7年ほど物理化学を教えていた。一旦教育から離れて、再び教壇に立った感想を授業改善の視点で述べてみたい。

当時、いかに理解させるかについて苦労したことを覚えている。物理化学では数式が頻繁に出てきて、数学が苦手な化学専攻の学生に対してどのようにわかりやすく説明するか試行錯誤を繰り返した。ただ、重要なのは、化学の多様な諸現象と今理解しようとしている数式とがどのようにつながるかを明確に説明することだが、これは容易なことではない。そのような宿題を残して今に至っている。

今回、教養的科目の「一年生のための読書論」と大学院の「計算理学概論」を担当した。ともに他の先生方との分担のため、それぞれ3週、2週を担当した。(読書論は、今週が私の担当分の最終回にあたる。) 読書論のほうは、受講生のほぼ全員が文科系の学生であった。選んだ本は、「免疫の意味論 多田富雄著」である。アレルギーやエイズなど身近な問題として関心は高いと踏んだが、内容に

は興味があったとしても専門用語に対するアレルギーが強く、予想通り苦戦した。朗読して、一文ごとに解説し、疑問に思ったことやどのような発展的なことを考えたかを述べていった。授業の前に、自分自身の思考プロセスをさらけ出し、いかに論理を追っていくかを見物してほしいと宣言した。また、読書からどれくらい発展的なことを考えたり、新たな問題を設定できるかが重要だと思うと述べた。大学院の授業では、物理や数学を学部で学んできた受講生に対して、化学や生物に関わる実験と数理モデルを紹介した。異分野の話をごどれくらいわかりやすく説明できるかが鍵を握ると思いつつ授業に臨んだ。

試験的にミニツツペーパーを使ってみた。ミニツツペーパーについては、当センターの青野により第14回共同学習会（*）で紹介された。毎回の授業ごとのアンケートであるが、青野の方法に従った。2つの質問からなり、1）この授業で最も大切だと思ったこと、2）この授業の内容についての質問を書かせる。以前、物理化学を教えていたときは、このようなアンケートを用いたことはない。今思うに、学生の理解度は肌でわかると決め込んで、きめ細かく把握することを怠っていた。ミニツツペーパーはきわめて有効であった。なぜ、こんな基本的なことを今までやらなかったのかと思う。授業のポイントを書かせることにより、学生の理解度が予想以上にコメントに現れていた。また、質問については、読書論の1回目の授業では、「専門用語が一人歩きをしている。」「どこが読書論かわからない。」など、完全な失敗を示していた。2回目には、再度読書からなにを得たいかについての私見を述べ、また専門用語をさらに注意深く解説した。2回目のミニツツペーパーによる反応はずいぶん改善された。大学院の第1回目の授業では、さすがに熱心に聴いてくれていたので手ごたえを感じていたが、ミニツツペーパーはそれが誤った印象であることを示していた。

近年、双方向の授業について議論されるが、ミニツツペーパーで気軽に質問を書かせ、次の授業で質問に答えることによって、適度な復習ともなるし、なによりお互いの信頼関係が生まれ、授業への動機付けの一つにもなると思う。わずかな労力で、大きな成果を感じさせてくれた新しい発見であった。（文責 西山）

（*）共同学習会の内容を録画したビデオのダビングをいたします。ご連絡ください。

角間ランチョンセミナー開催記録（6月14日～6月18日分）

2004.6.14「課外活動施設の利用方法等について」安田 純子（学生部学生支援課）

2004.6.15「レポートの書き方 早目の準備を」青野透（大学教育開発・支援センター）

2004.6.16「角間キャンパスの自然 - 角間キャンパスの自然シリーズ第一回 - 」

中村浩二（自然計測応用研究センター）

2004.6.17「角間の里山自然学校 - 角間キャンパスの自然シリーズ第二回 - 」佐川哲也（教育学部）

2004.6.18「里山での研究 - 角間キャンパスの自然シリーズ第三回 - 」

赤石大輔（大学院自然科学研究科院生）

センター教員活動記録（6月14日～6月20日分）

2004.6.16 金沢青年会議所地域創造委員会主催「第一回合同説明会」に参加

（於：長町研修館）（青野）

2004.6.17「IT時代の著作権問題」に参加、会場：（独）メディア教育開発センター（千葉）

主催：（独）メディア教育開発センター（堀井 公費出張）

2004.6.18「今後の学生募集と広報戦略 ～今年の志願者動向から国公立大学法人化、

受験者激減時代に対応した入試広報戦略を研究～」に参加、

会場：全共連ビル（東京）主催：総合教育企画株式会社（堀井 公費出張）